

目黒川流域河川整備計画(原案)

説明資料

平成29年10月27日

1. 流域及び河川の概要

- ・目黒川の概要

- ・土地利用状況の変遷

2. 河川整備の現状と課題

- ・洪水による災害発生状況

- ・河川の整備状況

- ・適正な利用及び流水の正常な機能の維持

- ・河川環境の整備と保全

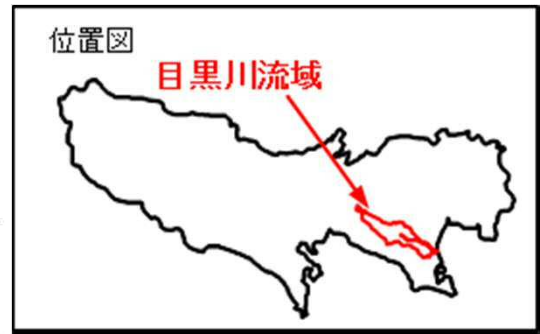
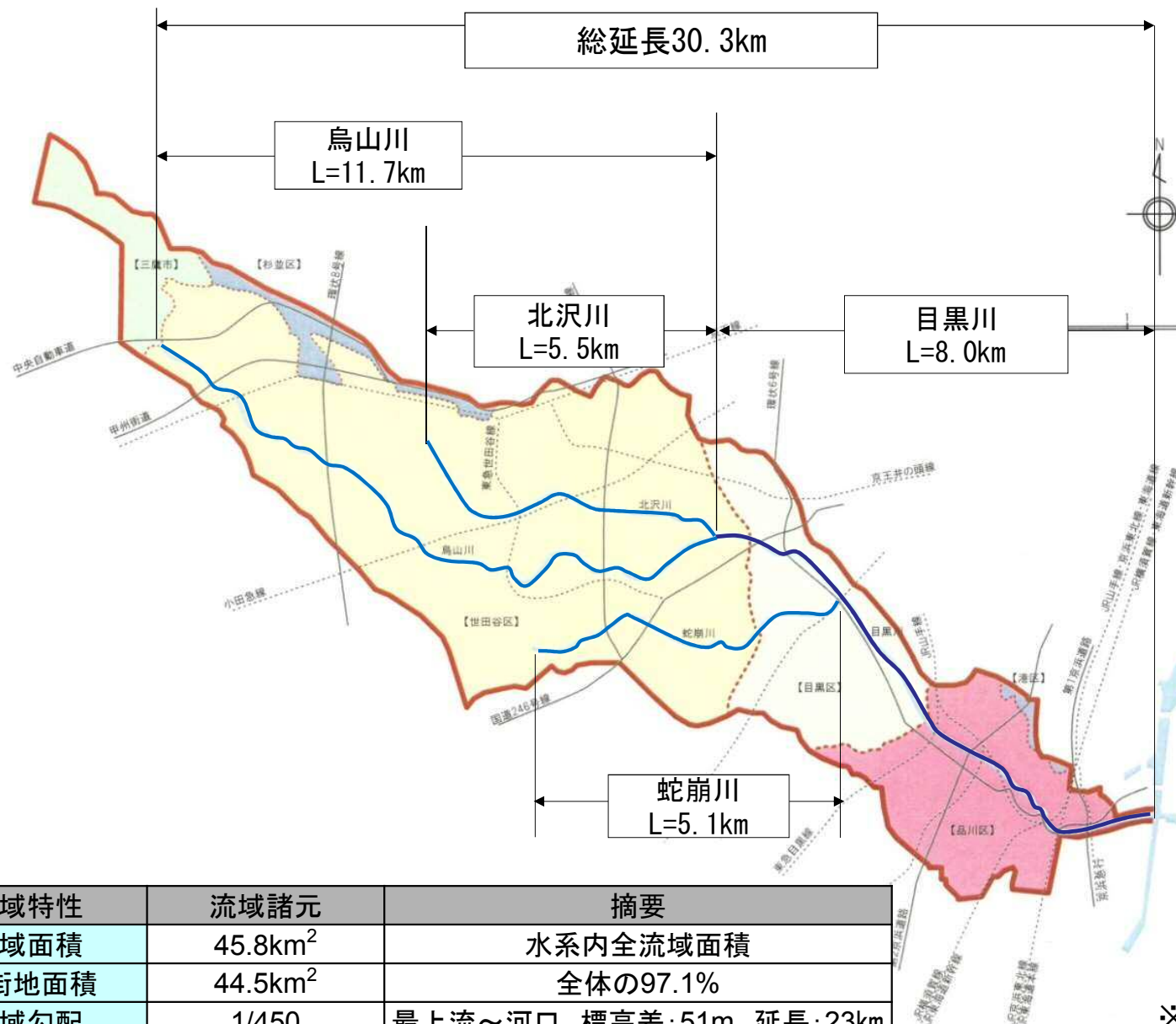
3. 河川整備の実施

- ・洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減

- ・河川環境の整備と保全

4. パブリックコメントの結果

1. 流域及び河川の概要 — 目黒川の概要 —



	流域面積 (km ²)
品川区	5.7
目黒区	7.5
世田谷区	28.0
港区	0.5
杉並区	1.3
三鷹市	2.9
合計	45.8

地域特性	流域諸元	摘要
流域面積	45.8km ²	水系内全流域面積
市街地面積	44.5km ²	全体の97.1%
流域勾配	1/450	最上流～河口 標高差:51m 延長:23km
流域内人口	738,399人	平成27年10月1日現在 国勢調査による。
流域内人口密度	16,122人/km ²	平成27年10月1日現在 国勢調査による。
下水道普及率	100.0%	東京都下水道局事業概要-平成28年度版-
流域内関係区市	港区、品川区、目黒区、世田谷区、杉並区、三鷹市 (5区、1市)	

※各区市で四捨五入しているため、合計値に差が生じています。

1. 流域及び河川の概要 一目黒川の概要

支川の過去と現在

北沢川・烏山川合流点

昭和初期



現在



北沢川上新井橋下流

昭和30年代



現在



蛇崩川・目黒川合流点付近

昭和初期



現在



目黒川の過去と現在

目黒川常盤橋下流

昭和中期



現在



目黒川三嶽橋下流

昭和中期



現在

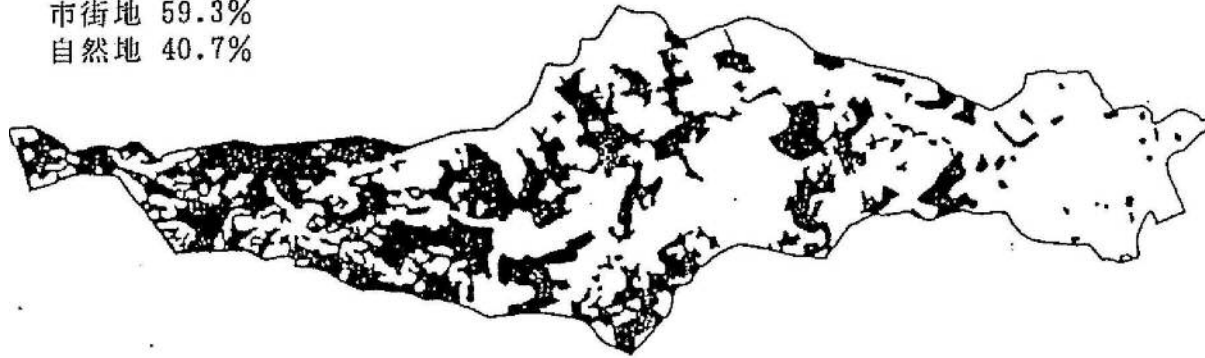


1. 流域及び河川の概要 —土地利用状況の変遷—

昭和初期

市街地 59.3%

自然地 40.7%



昭和40年代初期

市街地 92.3%

自然地 7.7%



平成17年から現在

市街地 97.1%

自然地 2.9%



- ・昭和20～30年代に中・上流部の開発が進むのに合わせ、流域内の市街地は急激に拡大
- ・現在ではほぼ全域が市街化され、流域内の自然地(田畑・森林・空地・公園・水面等)は、流域全体の3%程度となっている。

<出典>

■昭和初期～昭和60年代初期：

「目黒川総合治水対策暫定計画案調査委託報告書 S63.3、東京都建設局」

■平成5～6年：建設省国土地理院発行の1/2.5万地形図

「目黒川総合治水対策調査委託報告書、H9.3

■平成17年(将来)：用途地域総括図(1/50000)、1996、東京都都市計画局「目黒川総合治水対策調査委託報告書、H9.3

1. 流域及び河川の概要

- ・目黒川の概要
- ・土地利用状況の変遷

2. 河川整備の現状と課題

- ・洪水による災害発生状況
- ・河川の整備状況
- ・適正な利用及び流水の正常な機能の維持
- ・河川環境の整備と保全

3. 河川整備の実施

- ・洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減
- ・河川環境の整備と保全

4. パブリックコメントの結果

2. 河川整備の現状と課題 —洪水による災害発生状況—

<目黒川流域の主要水害記録>

年月日	要因	雨量観測所	時間最大雨量 (mm/h)	日雨量 (mm)	床上・床下浸水		原因
					床上 (棟)	床下 (棟)	
S56.7.22	集中豪雨	世田谷	63	67	1,074	1,106	溢水・内水
S57.9.12	台風18号	世田谷	59	163	904	577	溢水・内水
S58.7.9	集中豪雨	上目黒	54	70	11	89	内水
S60.7.14	集中豪雨	世田谷	56	68	332	533	溢水・内水
H1.8.1	集中豪雨	上目黒	62	191	582	247	溢水・内水
H5.8.27	台風11号	上目黒	66	241	119	4	内水
H9.8.23	集中豪雨	三田	78	89	92	80	内水
H11.8.29	集中豪雨	三田	101	102	700	369	内水
H12.7.3	集中豪雨	三田	62	64	13	30	内水
H14.8.4	集中豪雨	品川	64	70	88	89	内水
H15.10.13	集中豪雨	北沢	64	66	28	29	内水
H16.10.9	台風22号	北沢	58	217	48	33	内水
H17.9.4	集中豪雨	烏山	100	188	151	109	内水
H17.9.11	集中豪雨	三田	71	81	20	3	内水
H25.7.23	集中豪雨	中央町	102	104	136	44	内水
H26.6.24	集中豪雨	久我山	56	62	11	1	内水
H26.6.29	集中豪雨	駒場	50	67	63	37	内水



平成元年浸水状況



増水時の蛇崩川合流点

2. 河川整備の現状と課題 —河川の整備状況—

洪水・高潮対策

〔河道整備状況〕

中小河川区間(すずかけ歩道橋～大橋)では、1時間あたり50mmの降雨に対する護岸整備率が約9割、高潮対策区間(河口～すずかけ歩道橋)では、伊勢湾台風と同規模の台風により発生する高潮(A.P.+4.1)に対応する整備が約9割完了している。今後、一部護岸、防潮堤及び河床掘削を実施する。



〔調節池の整備状況〕



2調節池が供用中である。

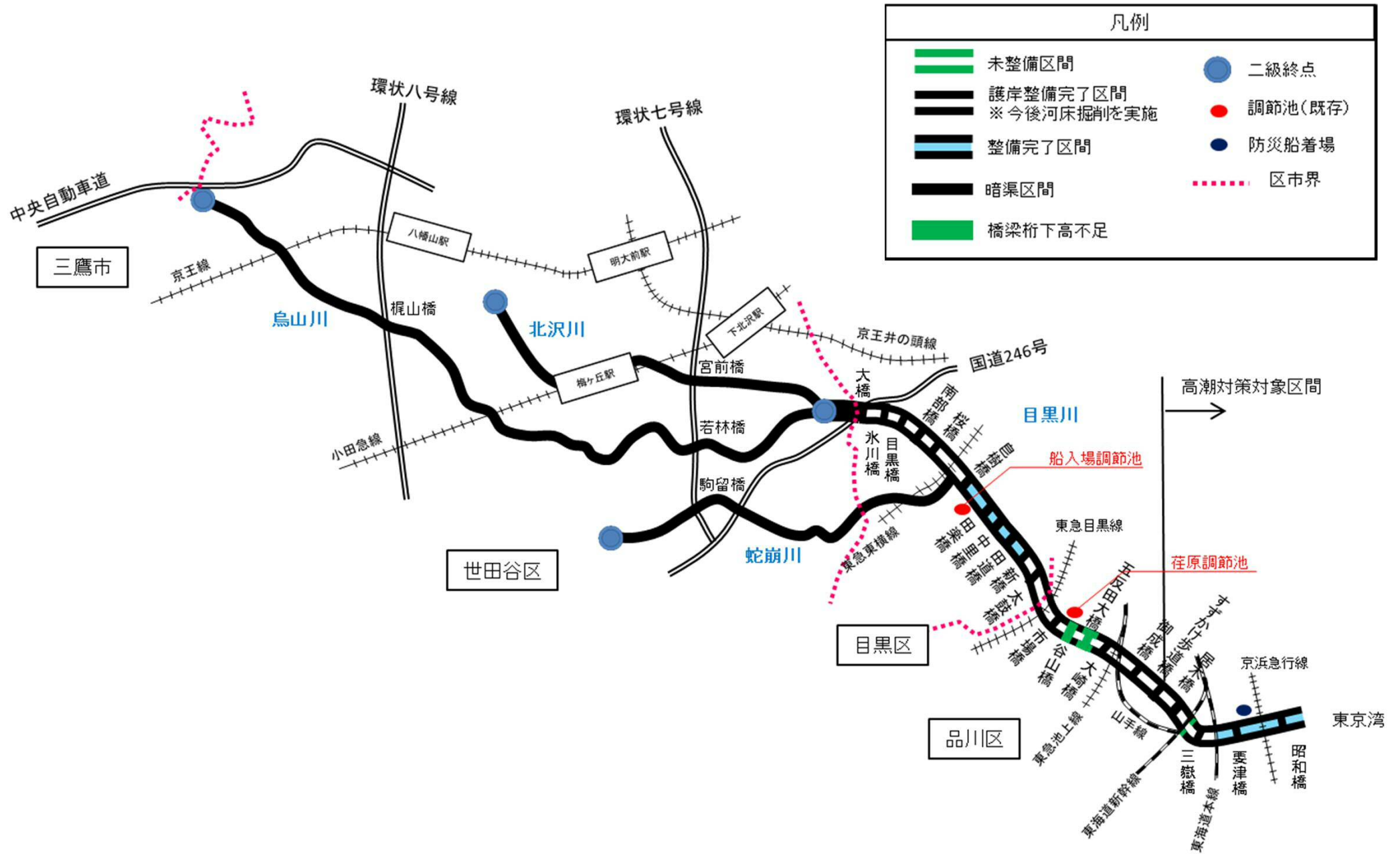
船入場調節池(平成3年供用開始)

容量55,000m³

荏原調節池(平成9年暫定供用開始)

容量200,000m³

2. 河川整備の現状と課題 —河川の整備状況—

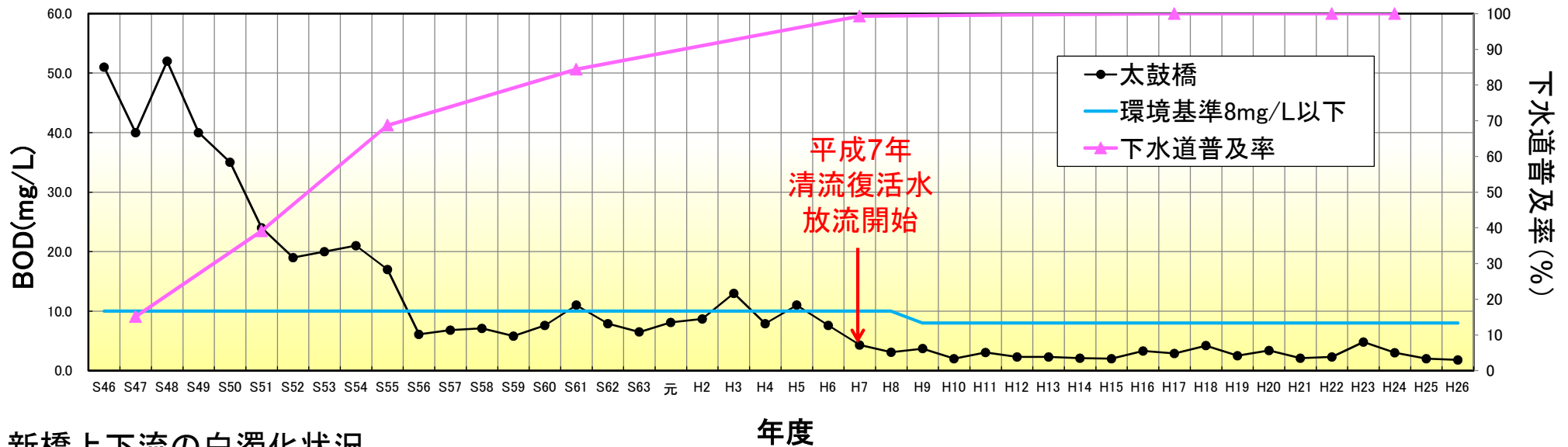


平成27年度末整備状況

2. 河川整備の現状と課題 —適正な利用及び流水の正常な機能の維持—

〔水質〕

- ・ 下水道の普及や清流復活事業等により、近年ではBOD(75%値)が8mg/L未満程度まで改善
- ・ 晴天が続き水質の落ち着いた際の測定(環境省の測定に準拠)では環境基準D類型を達成しているが、雨天翌日等では白濁化やスカム、臭気が課題となっている。



新橋上下流の白濁化状況



2. 河川整備の現状と課題 —適正な利用及び流水の正常な機能の維持—

〔水量〕

平常時の流量は極めて少なく、清流復活事業により、下水道再生水を北沢児童公園へ約30,200m³/日導水している(約0.35m³/s)。

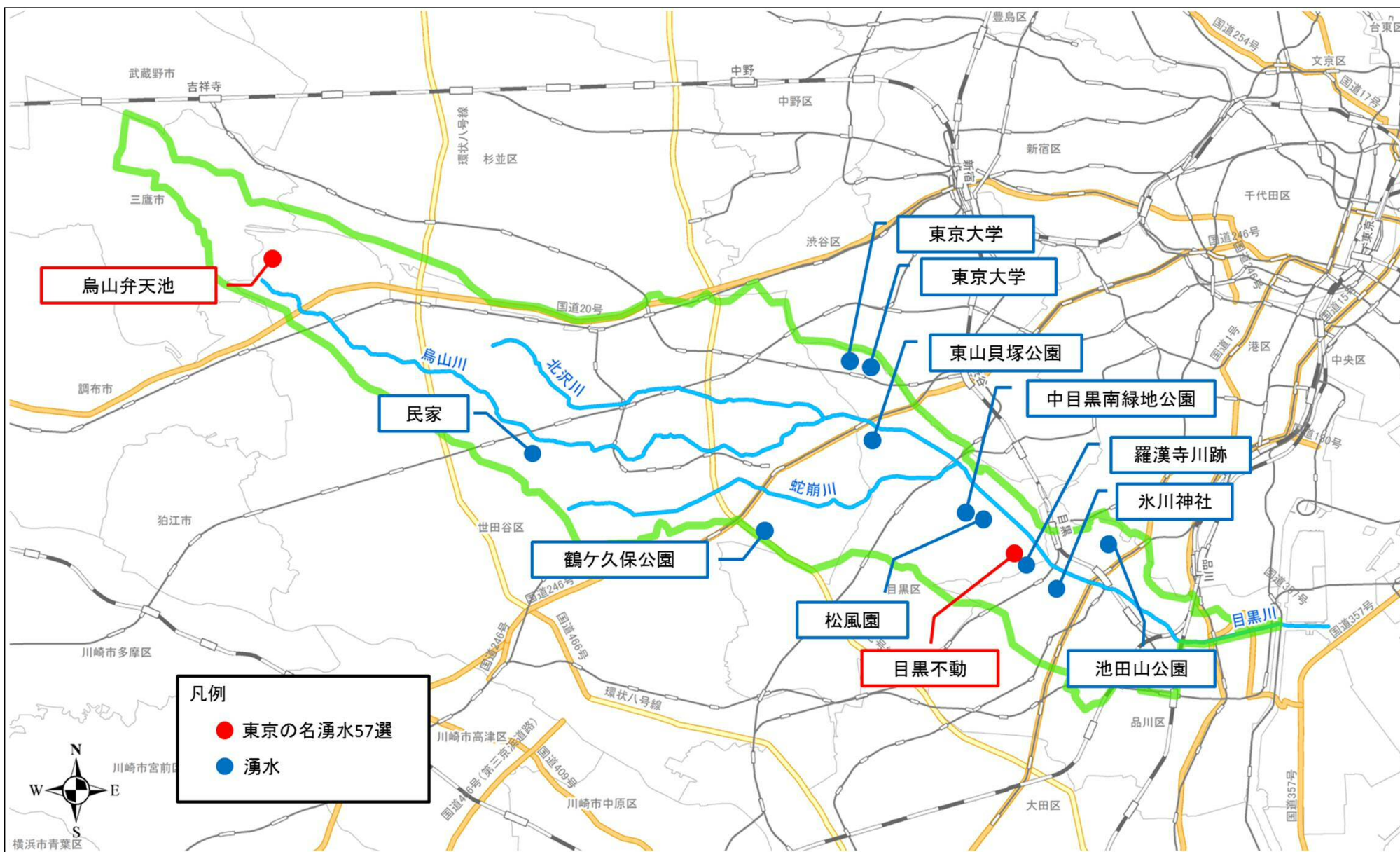


下流部(五反田大橋下流左岸)においては、地下鉄都営浅草線の地下水を、約1,690m³/日河川に放流している。



2. 河川整備の現状と課題 —適正な利用及び流水の正常な機能の維持—

目黒川流域上流部では湧水も少なく、大橋から船入場にかけては、清流復活水が主となっている。



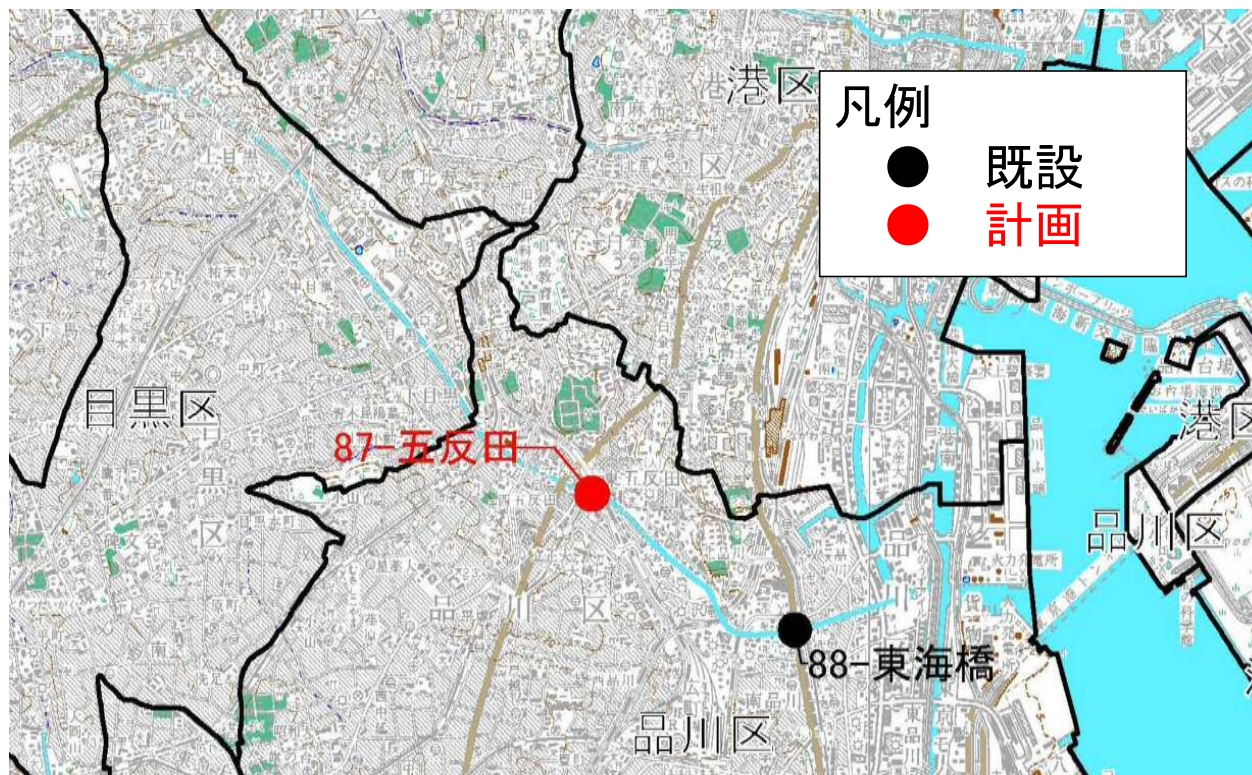
平成25年度 東京都環境局「～東京の湧水～湧水マップ」より

目黒川流域の湧水箇所

2. 河川整備の現状と課題 —適正な利用及び流水の正常な機能の維持—

〔河川の利用〕

- ・目黒川流域には、水利権、漁業権は設定されていない。
- ・災害時の物資輸送や救助等のライフライン確保のため、防災船着場が整備されている。
- ・大崎橋下流に新規で防災船着場の設置を予定している。
- ・目黒川など沿川が住宅密集地域である河川では、災害時に消防水利として河川水を活用するなど、防災面での河川利用が図られている。



2. 河川整備の現状と課題 —河川環境の整備と保全—

主な生物確認状況

魚類	ボラ、マルタウグイ、スズキ、スミウキゴリ、アユ、マハゼ、メダカ、アカエイ、モツゴ、カダヤシ、オイカワ、コトヒキ、ギンブナ、 グッピー 、 ドジョウ 、 ウナギ 、 ビリンゴ 、 ヌマチチブ 等
底生動物類	サホコカゲロウ、サカマキガイ、マダラサシバ、ゴカイ、エラミミズ、イトミミズ、ヒメモノアライガイ、シマイシビル、ミズムシ、 アメリカザリガニ 、 モノアラガイ 、 イボビル 、 ヌカエビ 、 テナガエビ 、 スジエビ 、 クロベンケイガニ 、 モクズガニ 等
植物	アキノエノコログサ、シロツメグサ、イタドリ、 セイタカアワダチソウ 等
鳥類	カワウ、カルガモ、ドバト、シジュウカラ、ムクドリ、イソシギ、ユリカモメ、スズメ、オカヨシガモ、ホシハジロ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ホオジロ、アオサギ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、メジロ、ウミネコ、コガモ、ツバメ、オナガガモ、マガモ、キセキレイ、 オオバン 、 スズガモ 、 カワセミ 等
両生類・爬虫類・哺乳類	スッポン、イシガメ、アブラコウモリ、 ミシシッピアカミミガメ 、 カミツキガメ 、 ハナガメ 、 クサガメ 、 アカハライモリ 等

青字は「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版」掲載種もしくは環境省レッドリスト2015掲載種、赤字は「我が国の生態系に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」掲載種

1. 流域及び河川の概要

- ・目黒川の概要
- ・土地利用状況の変遷

2. 河川整備の現状と課題

- ・洪水による災害発生状況
- ・河川の整備状況
- ・適正な利用及び流水の正常な機能の維持
- ・河川環境の整備と保全

3. 河川整備の実施

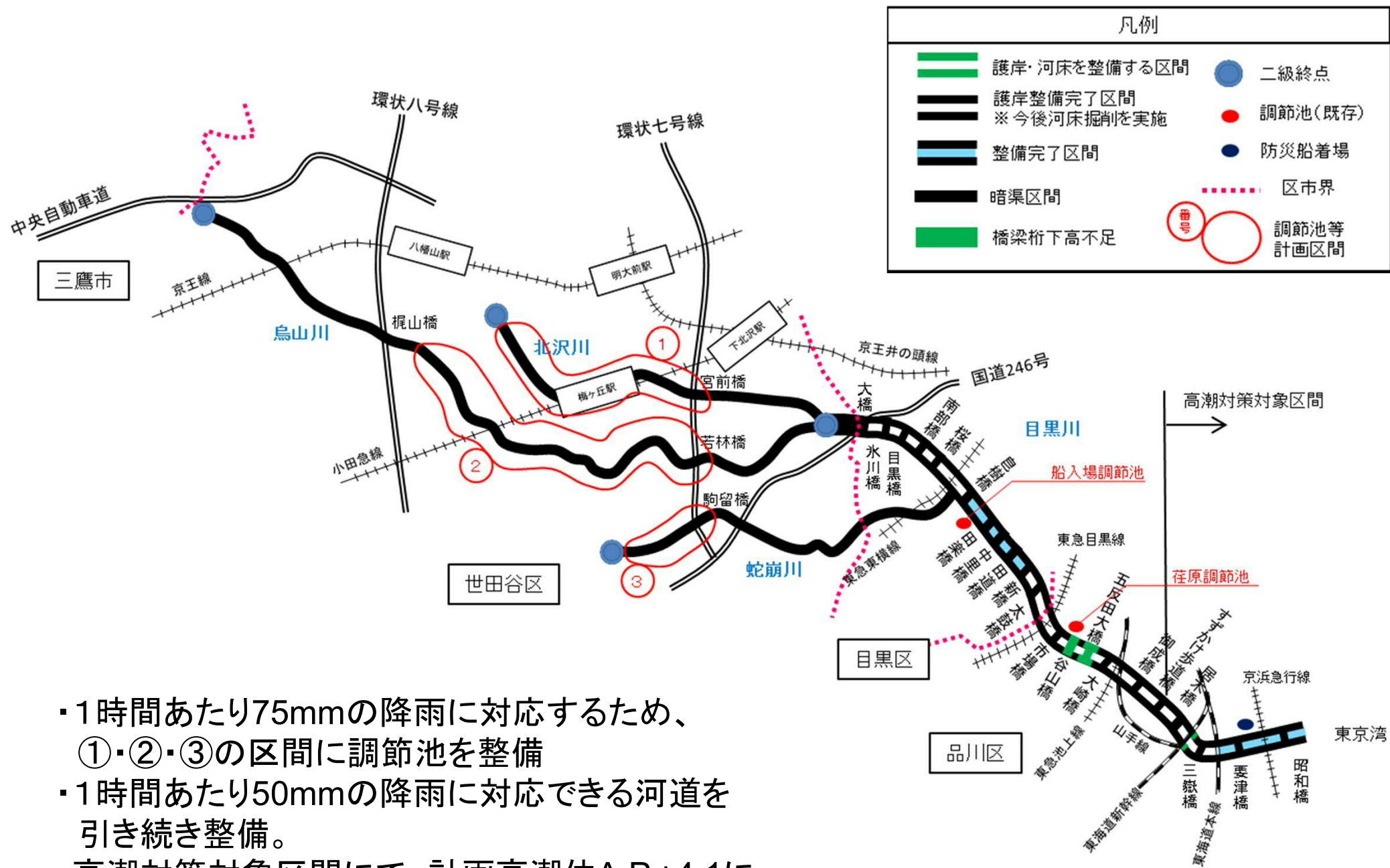
- ・洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減
- ・河川環境の整備と保全

4. パブリックコメントの結果

- ・ **洪水、高潮等による
災害の発生の防止又は軽減**

- ① 護岸整備、河床掘削、自然環境に配慮した整備
- ② 調節池の整備
- ③ 防潮堤の整備

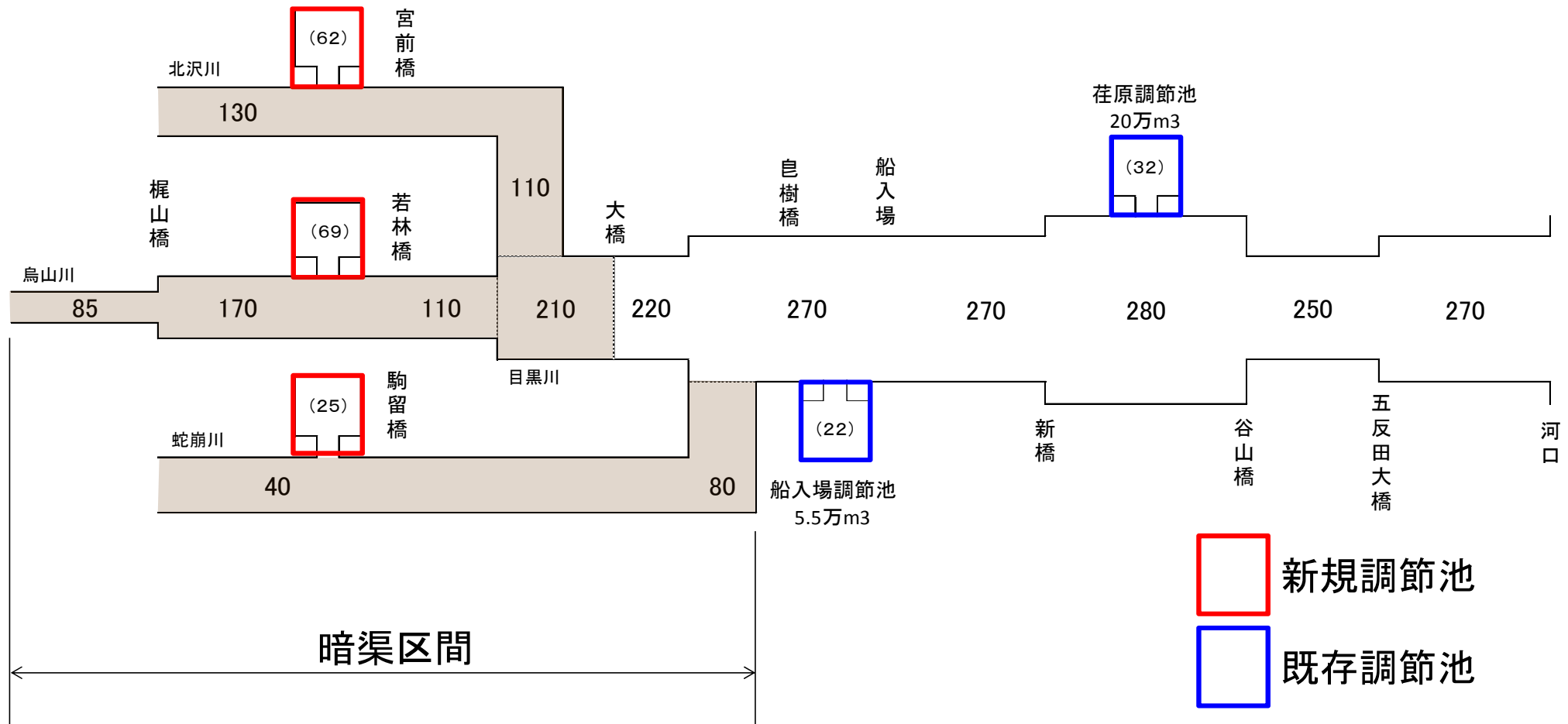
3. 河川整備の実施 —洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減—



- ・1時間あたり75mmの降雨に対応するため、
①・②・③の区間に調節池を整備
- ・1時間あたり50mmの降雨に対応できる河道を
引き続き整備。
- ・高潮対策対象区間にて、計画高潮位A.P.+4.1に
対応できる防潮堤を整備。

3. 河川整備の実施 —洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減—

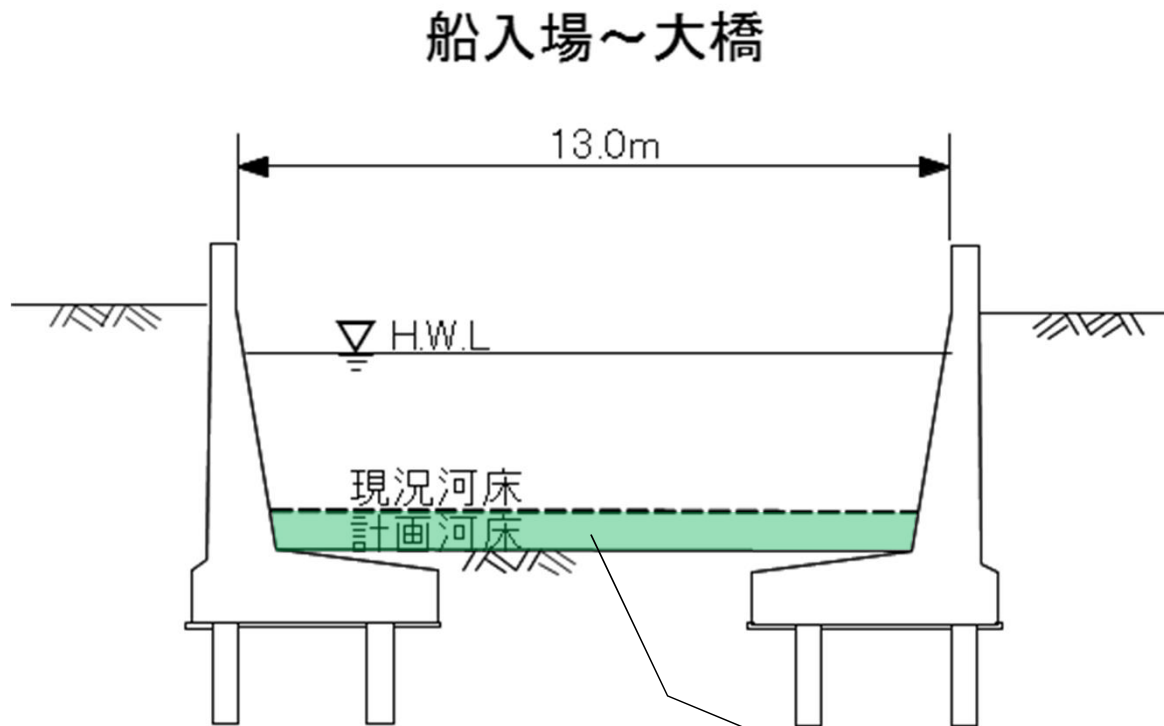
計画流量配分図(1時間あたり75mmの降雨に対して)



3. 河川整備の実施 —洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減—

①護岸整備、河床掘削、自然環境に配慮した整備

- ・河道で対応する1時間あたり50mm規模の降雨について、洪水を安全に流下させるため未改修区間の護岸整備、河床掘削を行う。
- ・自然環境に配慮した川づくりを行うため、可能な範囲で動植物の生息・生育・繁殖環境に配慮した河床整備を行う。落差工の設置にあたっては、魚類の自由な移動を妨げないように、形状等に配慮していく。



護床ブロックの撤去及び河床整備



3. 河川整備の実施 —洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減—

②調節池の整備

番号	河川	位置	調節池容量 (予定)
①	北沢川	二級終点～宮前橋	約132,000m ³
②	烏山川	梶山橋～若林橋	約283,000m ³
③	蛇崩川	二級終点～駒留橋	約57,000m ³

○既存調節池についても、治水効果を高めるために、必要に応じて取水設備等の改造を行う。

※①、②、③については、今後、配置場所等の施設計画を検討、調整していく。

③防潮堤の整備



3. 河川整備の実施 —河川環境の整備と保全—



緑橋下流護岸緑化状況

①管理用通路、護岸の緑化等

護岸緑化や管理用通路等への植栽を実施した箇所において、目黒川沿いの景観を楽しみながら散策できるよう、河川管理や治水安全性との整合を図りながら、その保全に努める。

②親水性を確保するための取り組み

関係自治体の景観計画との連携や、既に親水護岸を整備した箇所の保全に努める。



船入場の河床整備状況



五反田ふれあい水辺広場

③生物に配慮した取り組み

治水上支障のない範囲で、動植物など河川の生態系に配慮した整備に努めるとともに、すでに生態系が豊かな箇所においては、その保全に努める。

1. 流域及び河川の概要

- ・目黒川の概要
- ・土地利用状況の変遷

2. 河川整備の現状と課題

- ・洪水による災害発生状況
- ・河川の整備状況
- ・適正な利用及び流水の正常な機能の維持
- ・河川環境の整備と保全

3. 河川整備の実施

- ・洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減
- ・河川環境の整備と保全

4. パブリックコメントの結果

4. パブリックコメントの実施結果

● 意見聴取の実施概要

実施期間:平成29年9月1日～29日(4週間)

実施方法:原案の公表、リーフレットの配布

実施場所:都庁河川部、都建設事務所(4事務所)、流域区市(6区市)、都HP
※都・区市広報への掲載、HP・Twitter、町会への情報提供により周知

● 提出意見 (総括)

河川整備計画全体に関する事	2件
洪水対策に関する事	5件
内水対策に関する事	2件
水質に関する事	6件
防災に関する事	2件
河川利用に関する事	1件

合計18件

4. パブリックコメントの結果

●寄せられた主な意見と回答(案)

主な意見	回答(案)
◆河川整備計画全体に関すること	
<p>1時間75mm対策をとるとのことだが、今までの例からすると洪水対策はキリが無いように思う。調節池の建設工事は長い年月がかかるので、今後の人口及び土地利用の予測をきちんと行い随時見直しをしてほしい。</p>	<p>本計画については、洪水等に対する整備水準の見直し、流域の社会的状況等の変化、水質などの自然状況の変化や新たな知見、技術革新などにより計画期間内であっても必要に応じて見直しを進めていきます(第3章第1節)。</p>
◆洪水対策に関すること・内水対策に関すること	
<p>平成9、11、12年の目黒区三田の内水被害は時間最大101mmもあり、下水道の流下能力不足、下水道からの排水困難など具体的な原因がわかっているはず。 500m程度上流の船入場調節池へ雨水を廻す、陸上自衛隊目黒駐屯地、中目黒公園等の公共用地に調節池の新設等、下水道と連携した整備計画を示して欲しい。</p>	<p>目黒川流域では、河川と下水道の連携として、「第4章第1節(1)②調節池の整備」で北沢川、烏山川、蛇崩川の各区間に調節池の整備を計画しており、内水被害防止・軽減と合わせて河川への流出も抑制します。また、事業実施にあたっては、下水道管理者と調整の上、早期に事業着手が可能なよう検討を行なってまいります。</p>
<p>暗渠となっている烏山川、北沢川、蛇崩川の内水氾濫は流下能力不足と思われる。雨水浸透設備等含め、下水道と総合的な整備計画を示して欲しい。</p>	
<p>河道(護岸、河床掘削等)の整備完了目標はいつまでとしているのか。</p>	<p>河川整備計画の目標期間は概ね30年間としておりますが、早期に完了できるよう調整を図ってまいります。</p>

4. パブリックコメントの結果

●寄せられた主な意見と回答(案)

主な意見	回答(案)
◆水質に関すること	
<p>水質が環境基準を満たしている旨の記載があるが、下流ではいまだに白濁化したり、悪臭が発生している。その点の今後の展望、具体的な解決策があるのか。</p>	<p>東京都環境局の水質調査は、環境省の水質調査方法に準拠しており、採水日は晴天が続き水質が安定している日としています。そのため、環境基準は大雨時の影響(合流式下水道の放流を含む)を排除した条件の下で満足している状況です。</p>
<p>大雨時に下水道から汚水混じりの雨水が放流された際の水質が環境基準を満たしているのか。</p>	<p>水質改善については、下水道管理者と雨天時に合流式下水道から河川や海などへ放流される汚濁負荷量の削減について協議を行っています。</p> <p>また、地元区においても、水質浄化実験等を行い、その効果について現在検証をすすめているところです。</p> <p>引き続き、地元区、関係機関と連携し、水質改善の検討を進めてまいります。</p>
<p>白濁化やスカム、臭気が発生した場合も水質は環境基準を満足しているのか。</p>	<p>地元区や関係機関と連携し、目黒川へ直接流入している湧水を保全してまいります。また、現行の法律においては、地下水は下水道へ放流することとなっておりますが、止水対策を施してもなお地下構造物に漏出する地下漏えい水の導水など、今後とも目黒川の平常時流量の確保に努めてまいります。</p>
<p>現状下水道に流している流域からの各湧水を目黒川へ流すことで水量を確保し、悪臭の原因を改善できないか。</p>	<p>治水対策の早期実施に向けて、関係機関と調整を図ってまいります。</p>
<p>目黒川の水質を改善するためには、浚渫が必要だと思う。ぜひ、P.28にあるように、河床掘削を早期に実施し、ヘドロを取り除いていただきたい。</p>	